



文部科学省

熟議に基づく教育政策形成シンポジウム

日時:平成22年4月17日(土)13:00~16:50

会場:文部科学省講堂(東館3階)(千代田区霞が関3-2-2)

「熟議に基づく教育政策形成シンポジウム」

プログラム

○ 本シンポジウムの目的 = 現場対話のキックオフ

文部科学省は、「熟議」に基づく教育政策形成の在り方に関する懇談会において、現場対話とインターネット活用等による「熟議」によって教育現場の意見を収集し、教育政策に活かす方策を検討しています。

教育を取り巻く様々な状況の変化を踏まえ、現場の課題に立ち向かい、それを乗り越えるための「知恵」と「実行力」を生み出していくためには、教育現場に関わる様々な立場の方による「熟議」に基づく教育政策形成を促進することが重要であると考えます。

このたび、こうした教育現場に関わる様々な立場の方にお集まりいただき、「熟議」を実践していただくとともに、「熟議」の理解を深めていただくことを目的として、本シンポジウムを開催することとしました。

○ 「熟議」とは

「熟議」とは、多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくことです。

政策を形成する際、

- ①多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって、
 - ②課題について学習・熟慮し、討議をすることにより、
 - ③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
 - ④解決策が洗練され、
 - ⑤個々人が納得して自分の役割を果たすようになる、
- というプロセスのことをいいます。

【事例】

10年前、鹿児島県鹿屋市では地元医師会と県立病院が対立する中、救急車の市外搬送が多数発生しました。しかし、県立病院院長と医師会長などの関係者が積極的に熟議の場を開くことによって、問題解決のための画期的なシステムを考案し、皆で実行しました。今では、高度な治療まで地域内でできるようになりました。

また、3年前から、小児夜間救急のコンビニ受診が増え、医療疲弊が問題となったが、ここでも、医療関係者と母親たちの熟議の場が多数設けられることによって、受診行動の適正化と診療の質向上につながりました。

○ 本日のスケジュール

日時：平成22年4月17日（土曜日）13時～16時50分

場所：文部科学省講堂（東館3階）（千代田区霞が関3-2-2）

受付：12時00分～

※総合司会：竹原和泉

（「熟議」に基づく教育政策形成の在り方に関する懇談会委員）

(1) 開会挨拶（13時00分～13時10分）

鈴木文部科学副大臣より、会場内にて参加者の皆様にシンポジウム開催の趣旨等をご説明いたします。

(2) イン트로ダクション（13時10分～13時30分）

文部科学省職員より、皆様に対して、グループ討論のための基礎資料等についてご説明いたします。

また、金子郁容座長（「熟議」に基づく教育政策形成の在り方に関する懇談会）より、熟議の心得についてお話いたします。

(3) グループ討論（前半：13時30分～14時30分）

テーマ「小・中学校をよりよくするにはどうすればよいか」

主に小学校について議論するグループと、主に中学校について議論するグループに分かれ、9グループ×13、4名程度で討論していただきます。

各グループに配置されるファシリテーター（文部科学省職員）が司会進行を務めます。

(4) 休憩（14時30分～14時45分）

(5) グループ討論（後半：14時45分～15時45分）

進行は前半と同様です。互いの立場や問題意識を理解しながら、活発な意見交換が期待されます。

(6) グループごとにまとめ（15時45分～16時00分）

各グループでの熟議結果をまとめ、グループ内での意見等の集約を行います。

(7) 各グループの発表（16時00分～16時30分）

各グループの熟議結果を、それぞれのグループ代表者（自薦他薦）がテーブルから全体に向けて発表いただきます。

(8) 全体総括（16時30分～16時50分）

鈴木文部科学副大臣が、参加者との熟議の感想や、各グループの熟議結果をどのように活用していくか等の総括コメントを行います。

(9) 閉会（16時50分）

「熟議」：多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくこと。

政策を形成する際、

- ①多くの当事者(保護者、教員、地域住民等)が集まって、
- ②課題について学習・熟慮し、討議をすることにより、
- ③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
- ④解決策が洗練され、
- ⑤個々人が納得して自分の役割を果たすようになる、

というプロセスのことを言う。

◆事例:

10年前、鹿児島県鹿屋市では地元医師会と県立病院が対立。救急車の市外搬送が多数発生。しかし、県立病院院長と医師会長などの関係者が積極的に熟議の場を開くことによって、問題解決のための画期的なシステムを考案、みんなで実行。今では、高度な治療まで地域内でできるようになった。また、3年前より小児夜間救急のコンビニ受診が増え、医療疲弊が問題となったが、ここでも、医療関係者と母親たちの熟議の場が多数設けられることによって、受診行動の適正化と診療の質向上につながった。

◎熟議の期待される効果1：行政改革

- ・教育についての情報と議論が市民に広く開放される。
- ・行政が教育政策についての情報提供と熟議のファシリテーションをおこなうことで、市民と共に教育政策を考えることができ、現場と行政の間にある問題認識のギャップを縮小することにつながる。
- ・社会課題ベースの議論ができるので、「縦割り、横割り」行政を乗り越えた政策形成につながる。それによって、教育現場における社会課題について、迅速で効率的な対応が可能となる。

◎熟議の期待される効果2：新しい教育文化の創造

- ・正しく潤沢な情報のもと、色々な関係者が本音をぶつけ合い、課題を認識。そして、課題解決に向けて徹底的に議論をすることにより、社会的合意を編集・創造する。
- ・これらのプロセスを通じて、「市民一人ひとりが教育の担い手として当事者意識を持って教育に関わり、良い教育、良い社会を創る」という市民文化を醸成していく。
- ・それぞれの地域で、教育を考えるための「リアル熟議」が開かれるようになることで、市民が居場所と出番を確認するようになる。また、地域のつながりが形成される。

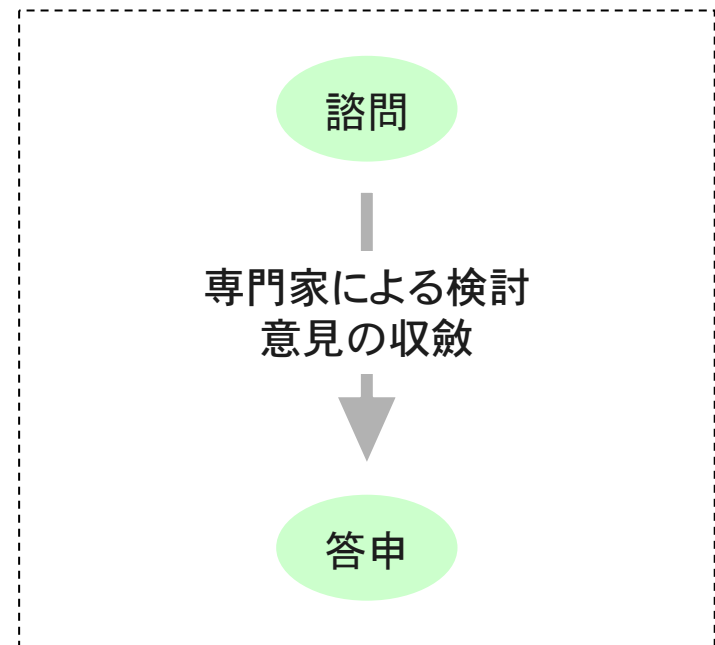
「熟議」に基づく教育政策形成の取組① - 文科省熟議による教育政策形成構想 -

中央教育審議会等における専門家による検討に合わせて、車の両輪として、当事者による「熟議（じゅくぎ）」に基づいた意見を踏まえ、政務三役にて政策決定を行う。

当事者による「熟議」



中央教育審議会等



「熟議」に基づく教育政策形成の在り方に関する懇談会

政務三役

教育政策の決定

「熟議」に基づく教育政策形成の取組② – 当事者による「熟議」のイメージ

当事者による「熟議」に基づいた意見を収集するため、
「現場対話」と「Webサイト」（熟議カケアイ）をハイブリッド展開する

現場対話での熟議



Webサイト上での熟議



ハイブリッド展開

平成22年4月17日開催の
「熟議に基づく教育政策形成シンポジウム」
からスタート

平成22年4月17日オープンの
Webサイト 文科省政策創造エンジン「熟議カケアイ」
にて「教員の資質向上」をテーマにスタート

【コンセプト】

- ① 実際に対面で行う「現場対話での熟議」と、時間・場所の制約が少ない「Web上での熟議」をハイブリッド展開
- ② それぞれの熟議には、「教育現場の当事者」と「政務三役」が参加
- ③ 文部科学省職員は、熟議を促進する情報提供(事例やデータ)・ファシリテーター役として参加
- ④ 熟議のプロセスはネット等で公開(特に、「Webサイト上での熟議」はリアルタイムで公開)

Webサイト「熟議カケアイ」画面イメージ

トップページ



熟議ページ



文科省政策創造エンジン「熟議カケアイ」

<http://jukugi.mext.go.jp/>

- ・4月17日よりサイトオープン。
- ・スタート時の熟議テーマは「教員の資質向上」（1ヶ月程度の期間で熟議を実施）。
- ・登録すれば参加可能。
- ・当初は、属性（保護者・学校ボランティア、教員・教育行政等）ごとに掲示板を用意して熟議を行い、熟議の状況に応じて、属性を取り払って熟議を実施。

熟議ページの概要

- ①熟議テーマ欄
 - ・政務三役より、熟議のテーマや質問等を掲載
- ②熟議のまとめ欄
 - ・投稿されたコメントを要約して掲載。
 - ・この「熟議のまとめ欄」を見れば議論経過を把握可能となる。
- ③コメント表示欄
 - ・参加者が投稿したコメントが表示される。
 - ・個々のコメントに対して「そう思う」「そう思わない」の投票が可能。
- ④コメント投稿欄
 - ・投稿するコメントを書き込む欄。

文科省 政策創造エンジン

熟議カケアイ